

いろは文字 鉾くさり（その三十五）和洋混淆こんこう 沙翁再登場さをう

沔尻成泰 戌

いろはにほへと ちりぬるを 色は匂へど 散りぬるを

わかよたれそ つねならむ 我が世誰ぞ 常ならむ

うゐのおくやま けふこえて 有為の奥山 今日越えて

あさきゆめみし ゑひもせず 浅き夢見じ 酔ひもせず

（ん）

一 岩代道路いはしろ

路傍にまつは

はて枝引くに

和皇子の顔にきみこ

星運憂へほしうんうれ

変転大和

磐代のいはしろ

浜松が枝をえ

引き結び

真幸くあらばまさき

また還り見む

（万葉集卷二——一四一 有間皇子ありまのみこ）

二 供連れ荒地ともつ あれち

朕は王なりちん わう

リア流離ひぬさすら

脱殻となるぬけがら

涙雨晴れぬをるいう

をうをうと不和

和も輪も無きか

かく王亡き世わう

（シェークスピア『リア王』）

三 よき山の方かた

激つや流れたぎ

麗景そこぞれいけい

それミコト発つくるまた

月夜浮舟

寝待酒の名ねまち

名美しき温泉らなくは ゆ

来遊残夢らいいう

四 無類勇猛 むるいゆうまう

腕鳴らす武威 ぶい

偉夫マクベスの ゐふ

野に三魔女のお みまじよ

驚き深く

奇しき言や くす

野心湧くまま

正に気は裂け

堅夫武士 けんふものい

不義に落つる子

(シェークスピア『マクベス』)

五 この山を越え

得ずや背子の手 せこ

天上にああ てんじやう

朝明の筋さ あさけ すぢ

小夜に送りき せよ

君の背に露

行く方眺め ゆく かた

愛き君の身 めぐ

身の上空し むな

然若き故 しか ゆゑ

わが背子を 大和へ遣ると や

さ夜深けて 暁露に わが立ち濡れし ふ あかときつゆ

(万葉集卷二——一〇五 大伯皇女) おほくのひめみこ

六 絵筆風問ひ ゑふで

広き天にも そら

物画きだせ ゑが

雪月花成す せつげつくわ

天紙風筆畫雲鶴 (懷風藻 大津皇子)

二〇二五年(令和七年) 九月九日

註

一 有間皇子 ありまのみこ 孝徳天皇の皇子(六四〇―六五八)。齊明天皇四年(六五八)、蘇我赤兄に謀反を唆 そそのか され、捕らえられて、齊明天皇、中大兄の滞在する紀州牟婁の湯(今、白浜温泉)へ送られ取り調べ。日本書紀(齊明紀四年)に、皇太子(中大兄)「何の故か謀反 みかどかたぶ けむとする。」有間皇子「天と赤兄と知らむ。吾全ら解らず。」京への帰途、藤 おのれもは

代の坂（和歌山県海南市）で処刑。万葉集に残された皇子の二首は、斉明、中大兄のもとへ護送される途中の作。

浜松が枝を　引き結び　草木を結んで幸福を願う信仰があった（斎藤茂吉「万葉秀歌」）。木の枝や草の茎葉などを結ぶことによって：何らかの願わしい事態が実現することを期待した（小学館新編日本古典文学全集）。

真幸くあらば　もし許されて無事でいられたら。

岩代道路　当時の彼らが通った道を言うが、今、国道42号線の岩代小学校前から西へ（大阪方面へ）一キロほど、海側に有間皇子結び松の碑が建っている。（標識らしいものもなく目立たない。）

路傍にまつは　松と待つ。立ち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来む、に倣って掛詞にしてみた。

和皇子の顔　和は温和な、おだやか、やわらかい。

星運憂へ　有間皇子は、大化改新（六四五）で父が天皇（孝徳）となり、皇位継承の可能性もあったが、それが中大兄にとっては問題。時の運にも恵まれなかったか。

二『リア王』　シェークスピア四大悲劇の一つ。老王リアが隠退するにあたり、国土を三人の娘に分け与えることにして、自分に対する愛が最も深いものに最大の地を与えると言う。長女、次女は言葉を尽くして甘言を並べたのに対し、純真な三女コーデリアは諂いの言葉はおろか、「なにもございませぬ。娘の務め相応にお父様を愛しております。」と短く言っただけ。愛してやまぬ末娘のこのわずかの言葉に怒った王は三女を勘当。その後、長女、次女の裏切り、虐待に荒野をさまよい、最後にはコーデリアの亡骸を抱いて狂乱のうちに息絶える。

供連れ荒地　朕は王なり　娘らに捨てられた老王、道化師一人を伴って嵐の荒野をさすらう。すでに半狂乱。

をうをうと不和Ⅱをうをうは泣き叫ぶさま。国土分与の件以来娘たちとの仲、血族関係の争い等多々。

三名美^{なくは}しき温泉^ゆらⅡ「名美^{なくは}し」は名が美しい、名高い。「ら」は語調を整える接尾語。

四『マクベス』Ⅱシェークスピア四大悲劇の一つ。スコットランドの勇敢な將軍マクベスは戦場からの帰り、荒野で出逢った三人の魔女から、将来国王になるとの不可思議な予言を受け野心に駆られるが躊躇するのを、夫人が国王暗殺計画を立て急^せかせる。国王を殺害したマクベスは予言通り新国王となるが、内心の苦しみに苛まれ、別の將軍が近々国王になるとの魔女の言葉におびえ、その將軍を殺し暴政をしく。イングランド軍が攻めてきたとき、「森が動いてこない限り勝利は自軍に」、「相手が女が生んだ者である限り勝てる」との魔女の予言を信じたが、敵兵は木の枝で身を隠して前進、森が迫ってくるとだまされ、一騎討の相手は、月満たずして母の腹を裂いて出されたのだと知らされた。予言に翻弄された勇士マクベスの末路。

五大伯皇女Ⅱ天武天皇の皇女。大津皇子と同母姉弟。十三歳で齋宮となり伊勢に赴く。
おほくのひめみこ

（齋宮となった最初の皇女）。弟の謀反事件により任を解かれた。万葉集に残る

歌は六首。みな弟を詠んだ歌。

大和へ遣^やるとⅡ大和へ帰そうと。

暁露^{あかときつゆ}にⅡ「あかとき」は「あかつき」の上代語。

得^せずや背子^{せこ}の手Ⅱ背子は女性が兄や弟、夫や恋人を呼ぶ言葉。

君の背に露Ⅱ本歌では作者が露に濡れたと歌っているが、悲運の弟の背を押すように送り出す姉の手の感触とした。

六天紙風筆畫雲鶴Ⅱ天の紙に風の筆でのびのびと絵を描く。『懷風藻』にある大津皇子の「七言 述志」。この句に続く「山機霜杼織葉錦」は「その三十三」でも言及した。

大津皇子Ⅱ天武天皇の第三皇子。大伯皇女おおくのひめみこの同母弟。母は天智天皇皇女大田皇女（持統天皇の同母姉）で早くに死別。「体格堂々。若くして学を好み、武を愛す。人士を礼遇、多くの者が従った」と懷風藻にあり、「詩賦おこりの興、大津より始めり」と日本書紀に言う。衆望をになったが、天武崩御の後謀反発覚逮捕、翌日処刑（二十四歳）。謀反は新羅の僧行心けんじやうしんのそそのかしと懷風藻にあるが、我が子草壁皇子を庇護する持統天皇の策によると言われている。大津皇子の辞世の歌は巻三
—四一六に
ももづたふ 磐余いはれの池に 鳴く鴨かもを 今日けふのみ見てや 雲隠かくりなむ
（懷風藻にも、「五言。臨終一絶」と題する詩がある。）

後 記

前作でハムレット、オセロを取り上げたので、残る四大悲劇の二作をほうっておくわけにはいくまい。シェークスピアを再登場させた。

岩代の結び松は、今年春伊勢鳥羽からの帰り、二度目か三度目だがこの結び松を見ようとして熊野紀伊の海沿いを走ってきたわけである。その時を思い出してフィクションも混ぜて一番と三番ができた。

五、六は有間皇子と並ぶ悲運の皇子、大津皇子。

二〇二五年（令和七年）九月十四日